

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の欠落等については、一つごとに1点減点する。

一

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

記憶を確かなものにしようとする個人や民族と、その記憶を共有しない他人や異民族との間に亀裂が生じ、

B

C

両者の間に流血をも辞さない戦いが続くような状況。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「記憶を確かなものにしようとする個人や民族と」…2点

■要素B 「その記憶を共有しない他人や異民族」…4点

* AとBはセットにして答案を吟味することになると予想される。Cの「戦い」が誰(何)と誰(何)との間でなされるのかについての説明が模範解答例と同等と認められるなら、A・Bセットで6点。

■要素C 「間に亀裂が生じ両者の間に流血をも辞さない戦いが続く」…2点

■要素D 「…状況・こと」という文末表現が原則。状況を説明した答案と認められる文末表現なら可。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点10点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 個人や集団を対立へと導くとしても、人間は歴史についての正確な記憶を持つべきなのか、あるいは和解の

ためにそれを忘却すべきなのかという二律背反的な問い。 D C

ためにそれを忘却すべきなのかという二律背反的な問い。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「個人や集団を対立へと導くとしても」…3点

■要素B 「人間は歴史について正確な記憶を持つべき」…3点

■要素C 「和解のためにそれを忘却すべき」…2点

■要素D 「二律背反的な」…2点

■要素E 「…問い・こと」という文末表現が原則。「問い」について説明した答案と認められる文末表現なら可。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点10点 ※別解あり。採点した結果合計点の高い方を採用する

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

※「**共同体の集会的記憶は重要だから。**」という内容を軸にした解答。

A B

被害も加害も含めた共同体の集会的記憶は、共同体に生きる人間の尊厳を獲得するために不可欠であり、他

C

人との協働や協力を可能にする資源として機能するから。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「被害も加害も含めた共同体の記憶」…3点

■要素B 「共同体に生きる人間の尊厳を獲得するために不可欠」…4点

■要素C 「他人との協働や協力を可能にする資源として機能する」…3点

■要素D 「…から…ので」という文末表現が原則。理由説明の答案として不適切な形であると判断される場合は1点減点。

■別解 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

※「共同体が記憶を忘却すると、自分の立ち位置を見失うから」という内容を軸にした解答。

A
 共同体が自らの記憶を忘却すれば、あるいは自らの苦しみの記憶に閉じこもって他の共同体を苦しめた記憶
 を忘却すれば、他の共同体に対する自らの立場を把握することができなくなるから。
 C
 B

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「共同体が自らの記憶を忘却すれば」…3点

■要素B 「自らの苦しみの記憶に閉じこもって他の共同体を苦しめた記憶を忘却すれば」…4点

■要素C 「他の共同体に対する自らの立場を把握することができなくなる」…3点

■要素D 「…から・ので」という文末表現が原則。理由説明の答案として不適切な形であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点1点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 自己の属している共同体の苦しみに固執し、他の共同体の成員の苦しみを無視し傷つけるような断片的、

断片的で持続性のない閉鎖的な記憶は、共同体間で共有しうるような公正な歴史とは認定できないという

こと。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「自己の属している共同体の苦しみに固執し」…2点

■要素B 「他の共同体成員の苦しみを無視し傷つけるような」…3点

■要素C 「断片的、断片的で持続性のない閉鎖的な記憶は」…3点

■要素D 「共同体間で共有しうるような」…2点

■要素E 「公正な歴史とは認定できない」…2点

■要素F 「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

※本文には「知ってるふり」という表現があるため、答案で「知ってる」と書いていても可。「知っている」でも可。

問一

【採点基準】

- ① ②
大学生は、周辺知識がほとんどないまま、孤立した昆虫の定義だけを保持して、
②
昆虫について知っていると思込んでしまっているから。(62字)

① ㊦ 2点、② ㊦ 3点、③ ㊦ 3点(計8点)

① 主語が「大学生」であること。

② へ昆虫について、周辺知識から切り離された孤立した知識しか持ち合わせていないこととの説明ができていないこと。「昆虫の定義的『知識』を持つているだけで、翅はねや各部の働き、近縁の動物との関係など、ほとんど知らない」など、具体的な表現になっているものも可。

③ へその定義のみを持って大学生は昆虫について知っているつもりになっている(or昆虫について知らない領域が存在することに気づいていない)ことの説明ができていないこと。

問二

【採点基準】

- ① われわれは通常、試験範囲などのような人為的に限られた知識を対象にして、
- ② 知識が少ないと知ってるつもりになりにくく、多いと知ってるつもりになりやすいと考えているから。(81字)

①＝5点、②＝5点。(計10点)

①へわれわれは通常、人為的に範囲の限定された知識を対象として知っているか知らないかを考えている。この説明ができていないこと。

②へ(それを前提に)知っていることが少なければ知ってるつもりになりにくく、知っていることが多ければ知ってるつもりになりやすいと考える。この説明ができていないこと。

問三 模範解答例※別解あり。採点して高い点数のほうを採用する

【採点基準】

所有している知識の周辺に目を向け、自らが「知らない」「わからない」状態にあると認識すること、

①

「知ってるつもり」に陥ることなく、

②

所有している知識を

③

周辺知識と結びつけ、

④

さらに知識を獲得し、知的世界を広げられるということ。(109字)

①≒3点、②≒3点、③≒3点、④≒3点。(計12点)

①〈「知らない」・「わからない」状態は〉孤立した知識を持って知ってるつもりになることとは対極の状態にある(○)知ってるつもり状態に陥ることがない(×)ことの説明ができていないこと。「知らないことがたくさんあると自覚できる」などの表現でもよいが、単に「知らないが増える」とだけして「自覚する」・「認識する」などの要素を欠くものは2点減。

②〈所有しているor知ってる知識を(使って)の内容があること。「既存の知識を」などの表現でも可。

③〈他の周辺知識と結び付けていくことが可能になる〉の内容があること。「他の知識と結びつける」などでも可。

③〈(そうすることで)知らない知識をさらに獲得し、知的世界を広げていくことができる〉ことの説明ができていないこと。「さらなる知識の獲得につながる」などの表現でも可。

【採点基準】 ※別解

- ① 人為的に範囲が決められていない世界を探究する知的営みの場合、
- ② 自分がすでに所有している知識を足掛かりとして、
- ③ その周辺に広がる未知の領域の存在に気付くことができ、
- ④ 「知ってるつもり」に陥ることを免れることができること。

① ≡ 3点、② ≡ 3点、③ ≡ 3点、④ ≡ 3点で。(計12点)

①人為的に範囲が決められていない世界を探究する知的営みの場合

②自分がすでに所有している知識を足掛かりとして

③その周辺に広がる未知の領域の存在に気付くことができ

④「知ってるつもり」に陥ることを免れることができること

【三】 古文 30点

▲ 内容説明の設問では、末尾の句点がないものは▲1点減点。ただし、現代語訳の設問では、句読点は不問。

問一 傍線部(1)「すべて、何ごとにもそのことに触れざれば、そのことの心ばへは知られぬものにて」で、宣長はどのようなことを言っているのか、具体的に説明せよ。(10点)

【模範解答】

貧困を経験していない富者は貧者に対して配慮できず、老いを経験していない若者は老人に対して配慮できず、性差を経験していない男性は女性に対して配慮できないように、ある状態を経験していない人間は、経験した人間のする、未経験者に対する配慮を理解できないということ。

- A ある状態を経験していない人間は、経験した人間のする、未経験者に対する配慮を理解できないということ。 4点
- B (貧困を経験していない) 富者は貧者に対して配慮できない 2点
- C (老いを経験していない) 若者は老人に対して配慮できない 2点
- D (性差を経験していない) 男性は女性に対して配慮できない 2点

◆ 各加点要素の加点の条件【A・B・C・Dに関して部分採点】

A ある状態を経験していない人間は、経験した人間のする、未経験者に対する配慮を理解できないということ。 4点

1 ある状態を経験していない人間は、理解できないということ。 2点

「ある状態を経験していない人間は、(それを)理解できないということ。」 「あることをしたことの無い人は、(それを)理解できないということ。」等の表現があれば、 2点。

* 文末表現「…(という)こと。」の無い答えは、減点1点。

2 経験した人間のする、未経験者に対する配慮を 2点

「経験した人間のする、未経験者に対する配慮を」 「それを経験した人のする、まだいたらない者に対する心づかいを」 「理解している人のする、無知な者に対する思いやりを」 「知っている人間のする、まだ知らない人に対する心理状態を」等の表現があれば、 2点。

B (貧困を経験していない) 富者は貧者に対して配慮できない 2点

* 同様な意味のものならば、可とする。

* 「配慮できない」「心づかいできない」「思いやれない」等の表現は可とする。

C (老いを経験していない) 若者は老人に対して配慮できない 2点

* 同様な意味のものならば、可とする。

* 「配慮できない」「心づかいできない」「思いやれない」等の表現は可とする。

D

(性差を経験していない) 男性は女性に対して配慮できない

2点

* 同様な意味のものならば、可とする。

* 「配慮できない」「心づかいできない」「思いやれない」等の表現は可とする。

問二 傍線部(2)「この一節」は、「笹」の縁語となる「一節」と「子の一節」をかけているが、「この一節」で、俊成は範光にどのようなことを訴えているのか、具体的に説明せよ。(10点)

【模範解答】

我が子の定家が、中將に転任できるように、後鳥羽院の近臣であるあなたが院に取りついで、自分の最後の願いを叶えてほしいということ。

〔注〕和歌の解釈なので、丁寧語や尊敬語が加えられてもよい。もちろんなくてもよい。

A 自分の最後の願いを叶えてほしいということ。 2点

B 後鳥羽院の近臣であるあなたが、(後鳥羽)院に取りついで(ほしい) 4点

C 我が子の定家が、中將に転任できるように(してほしい) 4点

◆各加点要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 自分の最後の願いを叶えてほしいということ。 2点

「自分の最後の願いを叶えてほしいということ。」 「自分はもう長くないので、なにとぞ願いを叶えてほしいということ。」等の表現があれば、 2点。

*文末表現「…(と)いう」こと。「のない答案は、減点1点。」

* 同様な意味のものならば、可とする。

B 後鳥羽院の近臣であるあなたが、(後鳥羽)院に取りついで(ほしい) 4点

* 同様な意味のものならば、可とする。

* 「取りついで(ほしい)」「取り計らって(ほしい)」「お願いして(ほしい)」「等の表現も可とする。

C 我が子の定家が、中將に転任できるように(してほしい) 4点

* 同様な意味のものならば、可とする。

* 「転任できるように(してほしい)」「昇進できるように(してほしい)」「等の表現も可とする。

問三 俊成の「小笹原…」の和歌の後、後鳥羽院より次のような返事があったと伝えられて⁴いる（『源家長日記』）。

小笹原変らぬ色の一節も③ 風待つ露にえやはつれなき

比喩の対象を明らかにして、傍線部③を現代語訳せよ。（10点）

【模範解答】

死期が迫り、ただ我が子の昇進だけを願う親であるお前（俊成）に対して、私は冷淡な仕打ちなどできようか、いいやそんなことはできはしない。

〈注〉和歌の解釈なので、丁寧語や尊敬語が加えられてもよい。もちろんなくてもよい。

一人称主語「私が」はなくても、文意は伝わるので、ここでは不問とする。

- A 「風待つ露に」の隠喩 「死期が迫り、ただ我が子の昇進だけを願う親であるお前（俊成）」に対して、5点
- B 「えやはつれなき」の解釈 「（私は）冷淡な仕打ちなどできようか（いいやそんなことはできはしない）。」5点

◆各加点要素の加点の条件【A・Bに関して部分採点】

A 「風待つ露に」の隠喩 「死期が迫り、ただ我が子の昇進だけを願う親であるお前（俊成）」に対して、5点

1 「お前（あなた・俊成・俊成の三位）」に対して 2点。

* 同様な意味のものならば、可とする。

2 「死期が迫っている」 2点。

* 同様な意味のものならば、可とする。

3 「ただ我が子の昇進だけを願う親である」 1点。

* 同様な意味のものならば、可とする。

B 「えやはつれなき」の解釈 「私は冷淡な仕打ちなどできようか（いいやそんなことはできはしない）。」5点

* つれなしの意味、不可能、反語の表現が揃っていて、同様な意味のものならば、可とする。

* 「素知らぬ顔などできようか（いいやそんなことはできはしない）」「薄情でいられようか（いいやそんなことはできない）」「冷淡でいられようか（いいやそんなことはできない）」等の表現も可とする。

* 反語は「反対の結論（いいや…ない。）」まで表現するのが望ましいが、ここは疑問の表現で終わっていても可とする。

以上